

Voice 10

ぼいす

2003. 3. 15

北区飛鳥山博物館だより



普賢象

染井吉野

asukayama
飛鳥山

麒麟

当社八すへて
紀州熊野山の地勢を写し、
前に音無川の流をうけて
風色真妙なり、
花の時八花をもて祀といへる、
神慮に因にや、
社頭に多く桜樹を植て、
春の頃八
境内殊に観賞あまりあり、
亦冬月雪の眺望も
他に勝たり

『江戸名所図会』より

紅山桜

福祿寿

6度目の春を迎えた飛鳥山博物館。あたりの景色にも馴染み、茨戸史料館、紙の博物館とともに北区の知的ゾーンとして定着してきた。そして、区民はもとより、区外からも多くの人々が来館するようになった。幅広い博物館活動が、人々の間に理解され活用され始めたことを感じ、うれしく思うと同時に、なお一層の努力を誓わずにはられない。

この間、飛鳥山博物館では、日常的な展示業務と特別展、企画展、スポット展示、各種講座、講演会、見学会、講習会、体験学習など、さまざまなプログラムを組んで、利用者の学習意欲に応えてきた。これら諸行事を企画立案し実行する学芸員諸氏の努力は大変なもので、資料づくりや資料収集など、休日返上で各地に出かけることが多い。博物館学芸員は、各分野の専門的な研究活動を軸として博物館事業にあたるが、博物館の日常的な管理運営を担当する職員諸氏が、博物館の「縁の下の力持ち」の役割を演じている。この両者が一体となって、よりよき博物館運営が可能となる。北区飛鳥山博物館の最大の特徴は、この両者の一体化が見事なまでに実行されているところにある。だからこそ、区内の主として小学生への体験学習や、中学生の社会科学習の場としても十分にその効果をあげることができているのである。学校教育の指導方針に沿った博物館活動が今後

求められることになろう。飛鳥山博物館が生涯学習の場として、小学生段階から活用するという方向は、日本全体の教育のさらなるレベルアップにつながると確信している。

飛鳥山博物館と学校との連絡協議会や、運営協議会が、幅広い博物館活動に対するさまざまな検討の場として設けられていて、それぞれ建設的なご意見をいただいている。これら協議会委員の皆様とも足並みを揃えながら、よりよき飛鳥山博物館の姿を追求していきたい。



「フー!」「ほら、もっと吹いて」(体験学習「カマド体験」より)

spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring.

春のスポット展示

飛鳥山十二景の世界
4/05 Sat. ~ 4/27 Sun.

「飛鳥山十二景」とは林大学頭信充の漢詩に由来する飛鳥山からの風趣あふれる12の眺望を詠った詩題です。当館には江戸在住の堂上派武家歌人によって作られた絵入りの飛鳥山十二景の歌集が4種収蔵されています。今回の展覧は館蔵の飛鳥山十二景資料を中心に、江戸中期の美しい名所の景観と公卿歌壇との関係についてご紹介する催しです。ぜひご来館ください。(I)

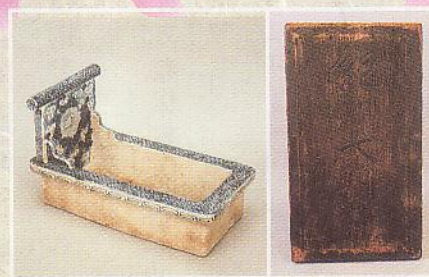


『飛鳥山十二景和歌』

ASUKAYAMAセレクション5 ~2003~
5/03 Sat. ~ 5/25 Sun.

博物館では膨大な数の資料を収蔵していますが、日頃はほんの一部の資料しか展示することができません。ASUKAYAMAセレクション5では、出番を待っている資料の中から、「これぞ」というものを毎回5点だけ取り上げてご紹介いたします。

今回は3人の学芸員が担当し、その独断と偏見(?)で各々1・2点ずつを選びだしました。展示資料は田端不動坂遺跡の出土品や江戸時代の神社の扁額をはじめ、区内の住宅で使われていた便器(!)も予定しています。ちょっとお得なア・ラ・カルト展示です。是非ご覧ください!(K)



染付模様のある便器

豊島・紀州神社の扁額

spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring. spot exhibition in spring.

第6回

遺跡探訪

雨中の行進 内裏塚古墳に登頂せよ!!

「房総の古墳を訪ねる」



房州石のふるさと

2月16日(日)10:40JR内房線青堀駅到着。予報どおり外は雨が降っていた。遺跡探訪も6回目を迎えたが、雨にたたられたのは今回が初めてだ。駅に集まった参加者は30名。我々スタッフ3名を含めて33名が今回のメンバーである。遺跡探訪は各地の遺跡を訪ね、見たり歩いたりしてその大きさや立地環境を実感してもらう催し物である。今回は「房総の古墳を訪ねる」ということで、ここ千葉県富津市にある内裏塚古墳群にやってきた。内裏塚古墳群は内裏塚古墳、三条塚古墳、九条塚古墳といった100mを越す大型前方後円墳を中心とした、関東でも有数の古墳群である。なぜ内裏塚古墳群を選んだのかというと、北区の赤羽台古墳群の3号・4号墳の石室石材に「房州石」というこの地域では特殊な石が使われており、この「房州石」を一般的に使用しているのが内裏塚古墳群なのである。ということで今回は赤羽台3号・4号墳と関連のある「房州石」のふるさとを訪ねることにしたのである。

雨二モ負ケズ いざ出発

我々はそれぞれ準備を整えて午前の見学に出発した。まだ小雨なこともあって、午前中は予定通りに駅周辺の2基の古墳見学を終えた。西原古墳で初めて本場の「房州石」を見学。その特徴は前日見学した赤羽台3号墳のものと同じであった。昼食をとり、午後の散策を開始した。さすがに雨を考慮し、予定を変更して主要な古墳の見学に留めた。心なしかそれまでよりも雨が強くなった気がした。古墳群は平野部にあるので移動には高低差はなく、道も舗装されているので歩きやすい。しかし、ひとたび古墳周辺になると地面はぬかるんでいる所があり、高い墳丘に登るときは足元に気をつけながら歩



みなさん思い思いの装備でいざ出発!!

を進めた。古塚古墳、白姫塚南方古墳を巡り、九条塚古墳の手前のコンビニでトイレ休憩。

九条塚古墳に登るとそこには「房州石」が散乱していた。「本当にどの古墳にもあるんですね」と参加者の声。墳丘を歩きその大きさを実感した後、三条塚古墳に向かい出発。途中、方墳の森山塚古墳に立ち寄り、三条塚古墳に到着。雨足も強くなり、メンバーはちょっと疲れ気味。この三条塚古墳には石室の天井石として使われた、今までで一番大きな「房州石」が露出していた。一同その大きさにため息。「こんな大きいのもうやって運んだらうね」。

めざせ内裏塚古墳

さて、いよいよ内裏塚古墳に向かう。雨の強さに加え風も出てきた。心なしか一行は早足気味になる。内裏塚古墳は全長144m、後円部の高さ11mの規模で千葉県下でも最大である。2時間程の行程を経た我々の体は冷え切り、雨を吸い込んだズボンで足は重い。それでも我々は墳頂をめざして登った。それまでの古墳より登る距離が長い。内裏塚古墳のなんと大きいことだろう。まさにそれを実感した。登りつめると木々の隙間からそれまで巡ってきた九条塚古墳、三条塚古墳の森が遠望できた。「結構歩いたんだね。あまり実感湧かないけど」。雨のせいで、夢中で歩いたからだろうか。それとも興味のなせる技か。一同は疲れている顔も見せず、その眺望に満足そうな表情であった。テレビドラマであれば、この時一筋の日の光でも差し込みそうだが、現実には強い雨足のままであった。最後の説明を終え、我々は墳丘を降りた。そして、休憩の後、駅に向かった。

(直)

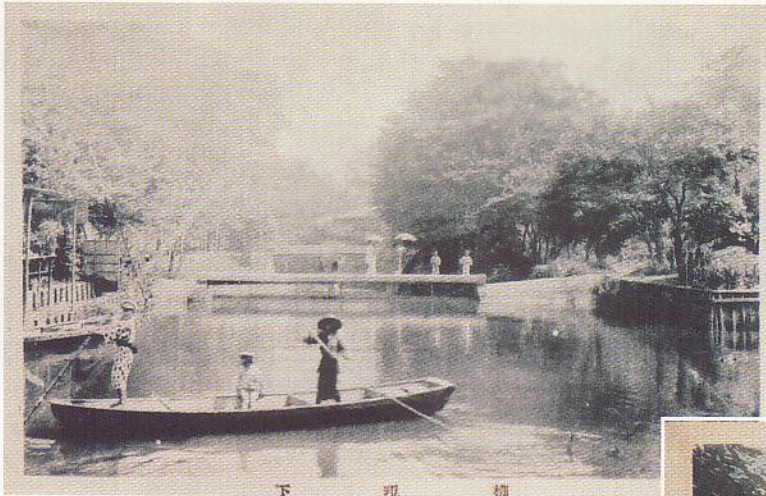


墳頂にて雨の中説明を聞く(上野塚古墳)

写真に見るあの日あの時 *special*

◆ 音無川のいまむかし ◆

王子の音無親水公園は、駅前の喧噪の中にありながら、春には花見、夏には水遊びをする子どもたちであふれ、区民の憩いの場となっています。この付近は、かつて石神井川（音無川）沿いに料理屋が連なり、また滝野川の渓谷に続く景勝の地であったことから、浮世絵にもたびたび描かれた名所でした。時とともに変わっていった音無川付近の姿を、絵葉書や写真を通して振り返ってみたいと思います。



下 野 橋

○絵葉書「権現下」年不詳 モノクロ 当館蔵

写真は明治末から大正初期頃のもので、撮影された場所は現在の音無親水公園の少し上流寄り、この付近から上流は紅葉の名所として知られていました。明治末頃には正受院裏に渡し船があったようですが、この写真にも、周辺の料理屋が舟を出していたのか、舟遊びを楽しむ様子が写っています。画面奥には石神井川を渡っていた木樋、さらに奥にはかすかに舟串橋が見え、東京の一画とは思えない風情ある景色です。

○絵葉書「滝野川の紅葉」年不詳 手彩色 個人蔵

題名にある「紅葉」よりも大きく画面を占めているのが大きな石堰です。明暦2年（1656）、現在の音無橋の上流寄りに石堰が設置されました。農業用水を分流するために設けられた堰でしたが、その美しさから「王子大滝」とも称され名所となりました。その後、数度の改修を経て、明治25年（1892）には写真のような姿に大改修され、昭和40年代前半の河川改修工事で撤去されるまで水音を響かせていました。堰の上を歩く人も写っていますが、実際は非常に細くて渡るのには怖かったと言います。



MAPLE AT TAKINOGAWA

葉紅の川野瀧

インタビュー

石神井川の思い出



思い出を語る石鍋さん（石鍋商店にて）

今回は、石神井川の近くで100年以上くず餅を作り続けている石鍋商店の石鍋秀子さんに昔の写真を見ながら、石神井川の思い出を語っていただきました。

石鍋商店は王子駅から王子稻荷へ続く参道の途中にあります。秀子さんはそこで大正13年にお生まれになった生粋の王子っ子です。

（聞き手）「早速ですが、石堰がこわされる前の石神井川はどんなだったんですか？」

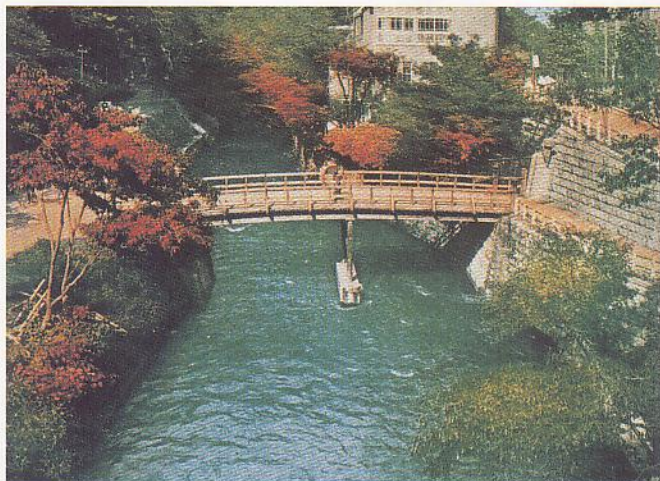
（石鍋さん）「水は深いんですよ。こっち（石堰の下流）は浅いけど、音無橋が出来てからは反響がすごくて、大雨でも降ったあとは怖い。（水音が）ザアザアね」と、子供のころの石神井川の印象を語っていただきました。それから、「この石堰、私は壊れる前に

陳情したんだけど、だめだったの。乾燥しちゃうと（石組みが）崩れちゃうからって」と少し残念そうな表情で、話して下さいました。

この石神井川に音無橋が架けられたのは秀子さんが幼稚園頃のこと、「（橋の工事で）掘った土が積んであって、乗り越えていかないと（幼稚園に）行けなかったの」と当時の小さな冒険談を語って下さいました。「すごいな、こんな橋が出来たんだ」というのが完成した橋を見た感想だったそうです。

（聞）「その頃の周辺の様子をうかがわせてください。」

（石）「川の縁は、結構もみじがずっとあって、（石堰のあたりは）今みたいに桜は咲いてなかったわね。王子神社の下の所に千川上水の木のトヨが渡っていて、江戸時代のだからポトポト水がたれるの。（トヨの）上の方はコケ



(区川野瀧)
瀧野川の風景
昭和7年(1932)の絵葉書。瀧野川の風景。瀧野川は、王子駅から下流方向に流れて、音無川に合流する。この絵葉書には、瀧野川の風景が写っています。中央の橋は舟串橋(1909年架橋)、その後ろに料亭「扇屋」の洋食部であった洋館が写っています。「瀧野川の溪流」と題した文には、鬱蒼とした樹木が川に覆い被さる様子を「どこか山奥の温泉場めいた静かな風景」と記しています。

○絵葉書「(大東京新二十区) 滝野川区」

昭和7年(1932) 人工着色 個人蔵

昭和7年10月1日、東京市域拡張によって王子・滝野川両区が東京市に編入された当時の絵葉書です。写真は音無橋(1930年架橋)の上から下流方向に撮影したもので、中央の橋は舟串橋(1909年架橋)、その後ろに料亭「扇屋」の洋食部であった洋館が写っています。「瀧野川の溪流」と題した文には、鬱蒼とした樹木が川に覆い被さる様子を「どこか山奥の温泉場めいた静かな風景」と記しています。

○写真(狩野川台風による音無川の洪水)

昭和33年(1958)モノクロ 藤田彪氏撮影

昭和33年9月26日、狩野川台風が東日本一帯を襲いました。石神井川は王子駅付近で直角に曲がっているため、駅周辺の浸水被害は甚大で、この時に舟串橋も破壊されてしまいました。写真は音無橋下の上流側、ちょうど川が屈曲している地点にあたります。

石神井川の氾濫は、流域の宅地化によって雨水が集中的に流入するようになったためですが、この台風をきっかけに河川改修を望む声が強まっていきました。



が生えていてつるつるすべるけど、中の水はきれいな。それが扇屋の所で(川に)水が落ちてね。」と、現在の花見で賑わう音無親水公園の様子とは大分異なっていたようです。

(石)「上流の方、紅葉園とか楓楽園とかあって、うちはね、春はくず餅、夏はところてん、蒟蒻とおでんは一年中売ったわね」とお話しは続きます。実は、当時、音無橋の上流には石神井川の自然を満喫できる私設の庭園がありました。お店で作った物はこうした庭園や飛鳥山の茶店でも売られていたのです。

(聞)「王子と言えば、王子稻荷の初午(凧市)が有名ですが、当時はどうだったのでしょうか?」

(石)「(初午は)にぎやかでしたよ。

1週間くらい前から見せ物小屋のテントが張ってあって、王子駅の方まで出店が続いていたの。子供はお正月のお年玉持ってね、朝から行って帰ってこないの。学校の授業も午前中で終わり、先生も楽しみにしていたわね」と季節の歳時記は今以上に私たちの生活に根ざっていたようです。

現在とはまた違った石神井川(音無川)付近の様子。いかがでしたか? まだまだ、当時の楽しいお話をたくさんうかがったのですが、紙面の都合で今回はこの辺りでおしまいとします。

お忙しい中、石鍋さんには快く取材に応じていただきました。本当にありがとうございました。

現在の石神井川(音無川)

石神井川は河川改修で飛鳥山の下を通過し、洪水はおきなくなりました。そして旧河道は「音無親水公園」として生まれ変わりました。春は花見、夏は子ども達の水遊びと、多くの人が公園を訪れます。



小春日和の音無親水公園

収藏品のご紹介

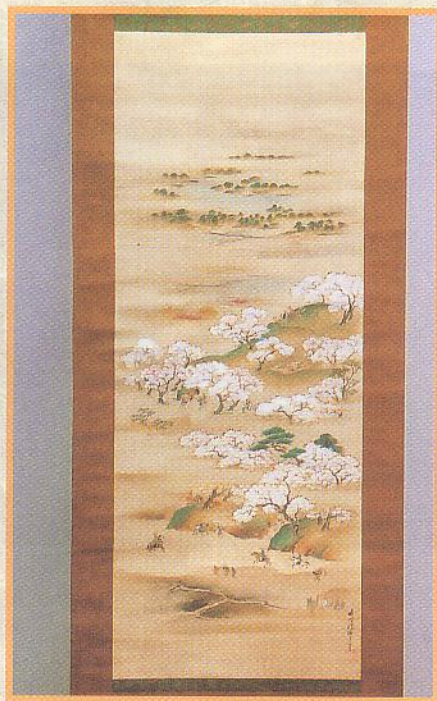
けんぽん 絹本「飛鳥山」・ 狩野養信筆

八代將軍徳川吉宗が開いた桜の名所に飛鳥山、御殿山、墨田堤があります。いずれも江戸周縁に位置し多くの遊覧客で賑わいました。

今回、ご紹介する資料は江戸北郊の名所・飛鳥山と南の景勝地・品川御殿山を描く二幅対の掛け軸のうち、飛鳥山を描く一本です。作者は江戸時代後期の幕府御用絵師である狩野養信で、きわめて保存状態の良い資料です。養信は江戸幕府の奥絵師家のなかでも権威を誇る木挽町狩野派・狩野栄信（伊川院）の長男として寛政8年（1796）江戸に生まれ、晴川院、会心齋、玉川と号しました。その後、文政2年（1819）法眼に叙せられ、同11年に家督相続、天保4年（1833）狩野派の頂点である法印の位に補任され多くの門人を育

てました。江戸城本丸御殿の障壁しょうへい画をはじめ幕府御用の作画に従事し、弘化3年（1846）に没するまで後期狩野派を代表する大家として画壇に君臨しました。

画面を見ると下部には飛鳥山に至る日光御成道（現在の本郷通り）が配され、中景に爛漫とした桜のもとで花見の清遊が繰り広げられています。また飛鳥山の碑の前には刻された文字を写している好事家の姿も見え、遠景には耕地を隔てて荒川の清き流れを描くなど広々とした秀逸な構図を展開しています。この作品は署名落款によると養信が法印になった天保4年以降の成立と知られ、気韻生動とした気品あふれる筆致を今に伝えています。



絹本「飛鳥山」図

あ る み る き

ポンプ井戸発見記

今回「街で何かおもしろいモノ、珍しいモノを探して来るベシ！」という編集長の指令の下、博物館を出てきたものの、何の当てもない…とにかく野生のキャンだけを頼りに『馬場商店街』へ向かってみた。足の向くまま、細～い路地に入ってしばらく歩いていく。すると、ナ、ナント『ポンプ井戸』発見!! 見るからにまだ現役だ。これは珍しい♡さらに少し進むと、またまた井戸が! こっそり(?)動かしてみると、オー、勢いよく水が出るではないですか。近くの魚屋さんとポンプ井戸についてお話を聞いてみると、今でも近くの五・六軒が共同で使っているとのこと。30年くらい前は、まだ飲用にもしていたけれど、今では口にするものには使わず、専ら植木の水やりなどに使っているのだとか『この裏にもあるんですよ!』と奥

さんに教えていただく。「そんなにあるんですか?!」とビックリ。そこで他にもないか付近を探索してみた。教えていただいた以外にも、現役の井戸、さらにもう引退したポンプをいくつも発見◎「こちら辺

帯は、つい最近まで井戸が活躍していたんだなあ」と実感する。

あなたの身近にも、まだまだこんな珍しいものが残されているかも知れません!?ぜひ、小さな探検に出かけてみてはいかがでしょうか。(ゆ)



A 大きくて力強そう♡



B 探すのはひと苦勞!?



C お話を聞いた井戸



D 草花に囲まれてマス



E もう引退 ご苦勞様

博物館 インフォメーション

今年もやります 夏休みわくわくミュージアム

夏の飛鳥山博物館といえば“夏休みわくわくミュージアム”。今年も様々な催し物をご用意します。恒例となった「親子土器づくり教室」や「クイズラリー」に加え、新企画も準備中。博物館全体も夏モードに変身します。夏は親子で飛鳥山博物館へGO！



「親子土器づくり教室」の一角

古い写真探しています

みなさんのお宅に古い写真はありますか？戦前から昭和50年代までの北区の町並みや、人々の暮らしがうかがえるような写真がございましたらぜひご一報を。※写真は一時お預かりして、複写させていただきだけで結構です。

まるきぶね 独木舟鹿児島に出航！！

去る1月22日（水）、中里遺跡出土の独木舟が鹿児島県へ出航しました。というのは、鹿児島県歴史センター黎明館で行う企画展「海を渡った交流品」に展示するために貸し出したのです。これまで中里遺跡の独木舟は福島県や福岡県、大分県に貸し出したことがありますが、今回が最も遠距離地への貸し出しとなりました。貴重な資料の運搬とあって、梱包は特別に木枠を作って安定させ、表面を傷つけないように丁寧に専用紙やさらして包む美術梱包で行いました。中里遺跡の独木舟は全体が3分割できるようになっていますが、その一つは200kg近くあります。

慎重に6人で運び出しをしたほどで、無事に美術専用車に積み込み鹿児島へと出発しました。独木舟は鹿児島で北区代表として活躍した後、3月20日（木）に帰館する予定です。



厳重に梱包された独木舟

お得な飛鳥山情報

飛鳥山といえば桜。そう、江戸の昔から飛鳥山は桜の花見で有名です。ところで、みなさん「御衣黄」という桜をご存知ですか？この桜、実は“一粒で二度美味しい”んです。「御衣黄」は最初薄緑の花を咲かせますが、なぜか日にちが経つに連れて紅い線がうかび、色がかわったように見えるのです。

不思議ですね。開花はソメイヨシノよりも遅く、例年ですと4月中旬です。飛鳥山博物館の玄関を出て、左に坂を下りる途中の右側にありますので、一度（いや二度です）ご覧になってはいかがでしょうか？



博物館オリジナル絵葉書がお求めやすく！！さらに種類も増えました！！

これまでセットで販売していた絵葉書を、4月よりバラでご購入できるようになりました。「浮世絵シリーズ」は1枚50円、その他は1枚20円です。さらに、「浮世絵シリーズ」に8種類が新登場！お好みの絵葉書を何枚でも、お好きなものを選び取りみどり選べます。

お客様の声

館の催し物に参加いただいた方々からの“ほいす”をご紹介します。

学校対応展示 & 体験学習「来て、見て、さわって！むかしの道具」より

「初めての体験で子供たちは朝からうきうきしていました。火吹き竹で火をおこす作業、うちわで扇ぐ作業など、本当に目を輝かせて、楽しそうにやっていました。私たちもいっしょにやっていると日常では味わえない充実感を持つことができました。最後に食べたおもちのなんとおいしかったこと！親切なご指導ありがとうございました。」（赤羽小の先生）

子供たちみんなが協力して火を起したから格別においしかったのでは。来年もお待ちしております。（編）

「手がつめたかった。せんとくいたでせんとくをしてたら、こしとかがいたくなってきた。今のせんとくより昔のせんとくいたのほうがつかれるし、手がつめたくなるから、今のせんとくの方がいいとおもった。」（洗濯体験をした滝

野川第2小の3年生）
こどもは正直ですね。（編）

講座「新聞から読む考古学2002下半期」より

「今日は参加できて、とても勉強になりました。新聞もよく見るとさまざまなことを読み取れることが分かりました。今回のように講座を休日に企画していただけると、学生なども参加できてとてもうれしいです。人数が多いときは午前と午後の2部制にしてはどうでしょうか？」（区内20代女性）

なるべく多くの方々に参加していただくためには、2部制もいいアイデアかもしれませんね。今後、検討してみたいと思います。（編）

企画展「七社神社前遺跡の「諸磯」集落」より

「私は七社神社のとなりあたりに住んでいます。こんなに近くで土器が発見されたなんてびっくりしました。」（区内小

学生女性）

みんなが住んでいる北区の地面の下には、まだまだたくさんのお宝が眠っているんだぞ！（編）

「5000年前の人もすばらしい物を作っていたんですね。私は陶芸をやっていますが負けました。」（区内30代女性）

縄文土器はいつ見ても独創的で華やかな感じがします。私もちょっとでいいから縄文人の感性をわけてもらいたいです。（編）

「なんだか時間を感じられてよかったです。このような土器を見たのは小学生以来だったので楽しかった。知識があったらもっと楽しめたのと思いました。実際に触ることができたら、もっともっとうれしかったです。」（区内20代女性）

土器に触って実感してもらいたい。でも資料の保存のことを考えると…。我々もいつもこのことで葛藤しています。工夫とアイデアで、なにか五感に訴えるような展示を実現してみたいです。（編）

学芸員リレーエッセイ

博物館 いるは歌留多

完全制覇を
今年こそ…
六阿弥院

突然私事で恐縮ですが、北区飛鳥山博物館へ着任して一年がたちました。この間、北区のことをとおく勉強させようと、諸先輩方が区内巡りの講座の手伝いや散策記事の依頼など、いろいろ創意工夫(!?)を重ねた仕事を回していただきました。そんなわけで、充実した一年だったわけですが、心残りがただ一点。それは忘れもしない昨年の「六阿弥院2分の1巡り」に端を発しております…。

みなさんご承知のとおり、春の彼岸行事の一つに六阿弥院詣があります。六阿弥院寺院のうち、一番の西福寺、三番の無量寺、そして四番の与楽寺の3寺院が区内に存在しています。全行程で20キロ以上にもなる旅の、約半分を講座でまわったのち、「これは全てにお参りせねばご利益があるまい、今年中には是非制覇を!!」と息巻く声もどこへやら、なにぶん根っからのインドア派、心に誓って不実行のまま一年を過ぎてしまったというわけです。で、今年は巡るぞ六阿弥院!…の、残りの半分…。

(洋)

常設展観覧料の一部がかわります

お隣の渋沢史料館と紙の博物館の「小中高」の観覧料が、4月1日より150円から100円になります。これにあわせて「小中高」の三館共通券も、320円から240円に値下げいたします。

臨時休館のお知らせ

燻蒸のため7月1日(火)～4日(金)の4日間をお休みいたします。博物館の大切な資料を害虫から守るため燻蒸を行います。人も燻蒸しては困るので、博物館は休館とさせていただきます。よろしくお願いたします。

利用のご案内

【開館時間】

午前10時00分～午後5時

(有料の展示室への入場は午後4時30分まで)

【休館日】

毎週月曜日(国民の祝日・振替休日の場合は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

国民の祝日および振替休日の翌日(土曜・日曜日の場合は開館)このほかに臨時休館日等があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	320円

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館の3館をごらんになれます。

春

◎春のスポット展示「飛鳥山十二景の世界」／「セレクション・5～2003～」

◇講座「狂歌で江戸を読む」

▽館外事業「第3回あるけおろじー」

夏

☆イベント「夏休みわくわくミュージアム03」

◇講座「新聞で読む考古学03上半期」

▽館外事業「北区歩く・見る」

秋

◎秋の企画展「団地ライフ」

◇講座「第3回中級考古学講座」

◇講座「江戸切絵図探訪」

冬

◎学校対応展示&体験学習「昔の道具を調べる」

◎春の企画展「王子稻荷と役者たち」

◇講座「新聞で読む考古学03下半期」

◇講座「文化住宅を考える」

催し物名は全て仮称です。この他にも各種催し物を予定しています。詳しくは館発行「催し物案内」をごらんください。



・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
 ・池田地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
 ・都電荒川線 飛鳥山停留所より徒歩4分
 ・都バス 甲64、甲40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分

編集後記

北区飛鳥山博物館も開館5周年、“ぼいす”も10号となりました。ということで、今号はオールカラー!! ページも2ページ増量の8ページとしました!! 初の試みで見開き2ページを特集とし、インタビュー記事も載せました。お忙しい中、石鍋さんには快

くインタビューに応じていただき、ありがとうございました。これからも、町のみなさんに北区のことを語っていただくスペースを考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす Vol.10

発行 平成15年3月15日
 編集 北区飛鳥山博物館
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
 TEL.03-3916-1133
 発行 東京都北区教育委員会
 〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
 TEL.03-3908-1111(代)
 印刷 羽陽美術印刷(株)